

令和4年度 学力向上を図るための授業改善推進プラン

府中市立府中第一中学校

教科：英語		
生徒の学習状況	1年	授業では、ペアでの対話活動や音読練習、ALTとのアクティビティに意欲的に取り組み、積極的に英語学習に取り組めた。自主的にノートまとめや文法問題集にもしっかりと取り組む姿勢がみられた。
	2年	授業中の態度は真面目で全体として意欲的に取り組んでいる。定期考査等に対しても計画的に自主的に学習を進めることのできる生徒が増えてきた。ペアワークやグループワーク等の言語を重視した活動においても、誰とでも協力して活動することのできる生徒が多い。しかし、まだ英語の勉強方法がわからないという生徒も多いので、継続的指導が必要である。
	3年	全体として「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能習得のため、試行錯誤しながら努力している。また、仲間とのペアやグループ活動に協力的に取り組む生徒が多い。タブレットを使っての音声練習やプレゼンテーション、各種テストなど、様々な経験を積んできている。その中で、これまでの学びの積み重ねをもとに3年の学習内容に意欲的に向き合う生徒も多い一方で、1・2年の基礎的な学習内容が定着しておらず、困難を感じている生徒もいる。
現状の課題	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で培ってきた単語や英語のフレーズをもとに、音と文字のつながりを大事にしたい。 ・繰り返し単語のつづりを定着させるべく、音読や小テストを定期的に行い、基礎力の定着を図ってきたい。
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化と基礎学力の両面で個人差がより大きくなってきている。 ・単語を覚えることは出来るが、覚えた単語を文の中で応用して使う力が弱い。 ・全体的に、英文を「書く」力が弱い。
	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学習内容を定着させるため、復習や学び直しが必要な生徒も多い。学習内容が非常に多いため、どこから着手すべきか迷う生徒がいる。 ・これまで身につけてきた基礎的な内容をもとに、より多くの英語使用場面に触れて理解を深め、表現できる内容を増やしていく必要がある。
具体的な改善のための方策	◎主体的、対話的で深い学びの視点から	
	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークを引き続き継続し、グループワークやスピーチ活動などを取り入れ、どのような場面でキーフレーズを使用するのかを学び、表現の幅や考えを深められるようにし、生徒同士のコミュニケーション活動を増やすようにする。 ・小テストやノートまとめを継続して、基礎力の定着を徹底していく。
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を覚えやすいように反復練習や学力の差が影響しない言語活動を工夫する。 ・ペアワークやグループワーク、スピーチなどの自己表現活動を通して、生徒が意欲的に他の生徒やALTとコミュニケーション活動をできるようにする。
	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのペアやグループワークの経験をもとに、生徒同士が話し合いながら理解を深められる時間をより多く設定することで、主体的・対話的に問題解決に取り組む姿勢を育む。
	◎学びに向かう力等を育むための視点から	
	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、ALTへのメッセージ、各単元のプレゼンテーション、音読など、生徒自身が英語を使っていく状況を作り、意欲を高める工夫をする。 ・本時の目標を毎時間確認し、授業ごとに課題を達成できるよう支援していく。また、単元ごとに振り返りとまとめの授業を実施し、学んだことを振り返りながらどのように活用していくのか学べるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法を提示し、自主学習を促す。 ・単語のテストを定期的に行い、語彙力の強化を図る。 ・新しい構文をパターンとして理解させ、それを活用することでより多くの生徒が文を「書く」ことができるようにする。 ・未習の文章に少しずつ慣れさせ、英問英答で内容を確認する等の習慣をつける。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がそれぞれの単元において、自分が達成したい目標を設定し、それに向かって時間をかけて努力し、自己の学習を振り返って次に生かす効果的な流れをつくるための支援をする。 ・英語が苦手な生徒には、継続的なドリル練習が効果的であるため、授業の中で練習経験を積み、それが家庭学習につながっていくようにさらに支援する。 ・生徒が自分の目標に合った学びを進めていけるよう、タブレットの効果的な使用等を通じて課題の設定を工夫する。 	